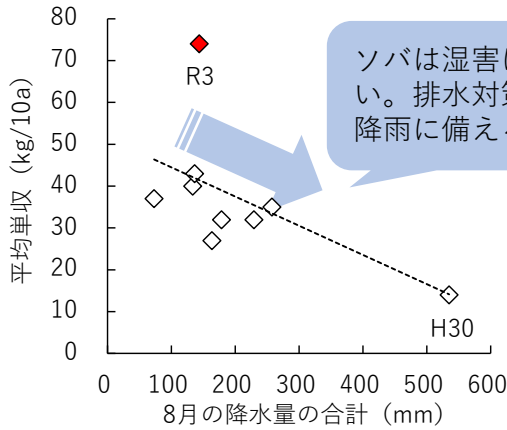


## 安定多収のポイントを再確認！

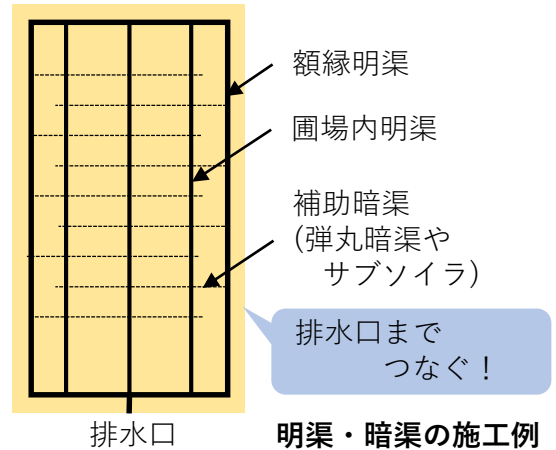
### 1. 圃場の排水性の確保(最重要)



ソバの平均単収と8月の降水量の関係

※H25～R3の9カ年の鶴岡市の平均単収(農水省統計)とアメダスデータ鶴岡から作成。

- ◆ ソバの平均単収は、8月の降水量が多いほど少ない傾向がある。必ず明渠、暗渠・補助暗渠を施工して降雨時の水の停滞を防ぐ。



### 2. 目標施肥量・土づくり資材

成分	窒素	リン酸	カリ
kg/10a	2.0～4.0	6.0～9.0	6.0～9.0

- ◆ 過度の窒素施肥は徒長・倒伏に繋がるので避ける。
- ◆ 野菜後作の場合は、窒素を施用しない。
- ◆ 窒素だけでなく、リン酸・カリも十分量施用する。
- ◆ 土壌 pH6.0を目標に石灰資材等を投入する。
- ◆ 土壌診断に応じた肥料・土づくり資材を施用する。

### 3. 播種適期と播種量

播種適期(月日)	
平坦部	中山間
8月1日～8月10日	7月25日～8月5日

播種量(kg/10a)	
散播	条播
7～8	5～6

- ◆ 訪花昆虫の活発化する時期に開花期を合わせるため、また、結実・登熟に最適な気温・日照を確保するために、適期に播種する。
- ◆ 天気予報を確認し、播種後に晴れの続く日をねらって播種する(播種後の大雨で出芽率が低下)。
- ◆ 散播では、碎土率を十分(2cm以下の土塊が7割)にし、播種後にロータリ等で浅く土壌に混和することで、苗立ち数を確保する。

## 熱中症を予防しましょう！

暑い日は20分おきに休憩・水分補給！



# R3実証圃の結果から

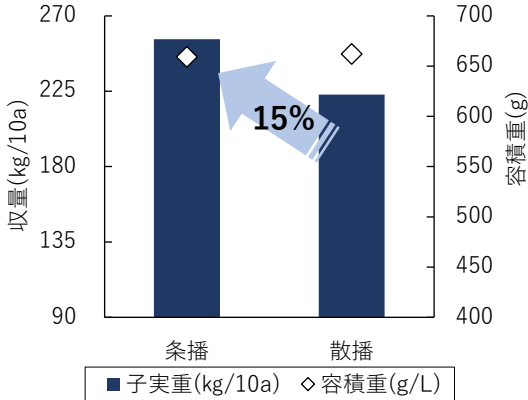
## 〈鶴岡市上郷〉播種方法(条播・散播)を見直す！

【実証内容】条播(機械播種)による安定多収化。

**播種方法** 条播：機械播種、散播：動散による種子散布後、ロータリーによる土壌混和。

**播種量** 条播：5kg/10a、散播：8kg/10a

**概要** 播種以降、好天日が続いたことから、条播・散播とも苗立ちが極めて良好であった。苗立ち数は、条播が100本/m<sup>2</sup>程度、散播が200本/m<sup>2</sup>程度で、播種量の差で苗立ち数に差が生じた。散播では、苗立ち数が過多であったことから、開花期以降の倒伏が顕著であった。収量は、条播の方が散播よりも多く、条播の分枝数が散播より多かったことや、散播で倒伏したことが収量に影響したと考えられた。条播は、播種深度が一定で苗立ち数が安定しやすいため、播種量を散播よりも少なくでき、また、動散による播種と播種後ロータリー耕の手間が無いため、省力的な播種方法であった。



条播

生育の揃いが良好で、散播よりも分枝数が多かった。



散播

苗立ち過多で、茎が細く、開花期以降の倒伏が顕著だった。

### 実証圃の収量と容積重

品種:「でわかおり」、播種日:7/31  
※歩刈調査による。

## 〈鶴岡市宝谷〉土づくり・施肥量を見直す！

【実証内容】施肥改善(鶏糞燃焼灰でのリン酸・カリ供給)による安定多収化。

そばの目標施肥量と実証圃における施肥量

施肥	現物量 kg/10a	投入量(成分kg/10a)			
		窒素	リン酸	カリ	
目標量	-	2.0~4.0	6.0~9.0	6.0~9.0	
実証圃 施肥量	化成14-14-14	30	4.2	4.2	4.2
	鶏糞燃焼灰	15	0.0	3.9	2.4
	合計施肥量	-	4.2	8.1	6.6

化成14-14-14のみ(慣行圃)の場合、リン酸・カリの施用量が目標量に満たない。

実証圃の土壌分析結果(成熟期頃)

区	土壌pH	有効態リン酸 (mg/100g乾土)
実証圃	6.2	23
慣行圃	5.7	17

**施肥** 実証圃：化成14-14-14 30kg/10aのみ

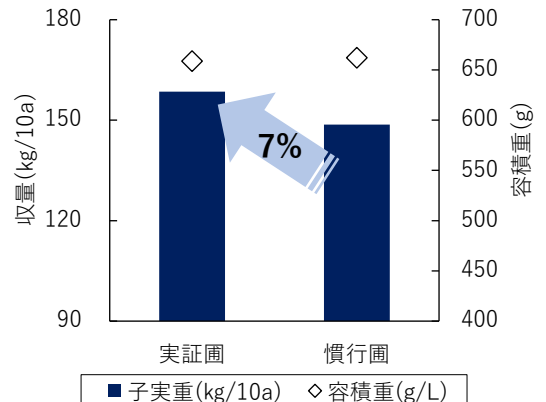
慣行圃：化成14-14-14 30kg/10a

鶏糞燃焼灰 15kg/10a

**播種** 両圃場とも6kg/10a(散播)

**概要** リン酸・カリを含み、アルカリ性の資材である鶏糞燃焼灰を施用した実証圃では、慣行圃よりも土壌pHと有効態リン酸の含量が高くなった。収量は実証圃の方が慣行圃よりも多く、容積重(品質)は同等であった。

ソバは、窒素の多施用が倒伏・減収に繋がる。鶏糞燃焼灰は、リン酸・カリのみを供給しつつ、土壌pHを矯正する場合に有効な資材と考えられた。



### 実証圃の収量と容積重

品種:「山形BW5号」、播種日:8/5  
※歩刈調査による。